

直腸脱

とは加齢により骨盤底筋肉の中の肛門括約筋機能の低下（要は筋肉の萎縮によって肛門が緩んでしまった状態）によって、直腸粘膜全層が肛門外に脱出する病態をいいます。圧倒的に高齢女性に多い疾患で、子宮脱や膣脱を合併することもあります。

こんな**症状**があります

①肛門部の不快感（図1）

排便時や腹圧がかかった時、
さらに立位をとるだけでも脱出

脱出した粘膜により下着が
血液や粘液で汚染され、
生活の質が侵される場合、
外科治療対象となります。



図1

治療としては

①脱出した粘膜の縫縮（図2,3）



図2



図3

②肛門内に還納

③肛門輪を指1本程度の太さに 縫縮（図4）

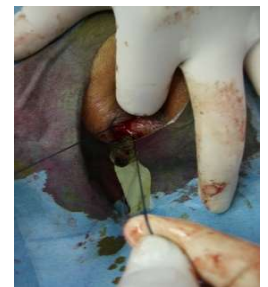


図4

治療は手術以外にありません

脱出直腸が10cm位までならこの手術を行いますが、それ以上になると脱出粘膜全層を切除して筋層とともに短縮したうえで縫合する方法、あるいは再発をきたす症例では開腹して直腸をつりあげて、骨盤に固定する方法が行われます。

出口Dr.からのコメント

近年の高齢化社会の進行とともに対象症例は増加の傾向にあり、とりわけ生活の質を大きく損なうことが多いこの疾患に対しては脊椎麻酔で非開腹の比較的低侵襲度の手術が可能であることから対象症例には積極的に治療をおこなっているのが現状です。

ただ、肛門周囲の不快を自覚する疾患としては直腸脱の頻度は痔核、痔瘻、裂肛などの疾患に比べては低いものですので、自覚された場合は外来に来ていただき診察したうえで、正しい診断のもとに至適な治療法を提案させていただきます。



泉北陣内病院

